

—目次—

トピックス

～会員団体の活動紹介～

1. 日本発達障害連盟の開発途上国支援 —技術供与から地域活動推進へ—
公益社団法人 日本発達障害連盟 理事
沼田 千好子
2. 第21期ダスキン・アジア研修生 成果発表会・修了式
～オンラインにて開催・アジア諸国にも配信！～
公益財団法人 ダスキン愛の輪基金 常務理事／事務局長
室山 都子
3. ラオスでの障害者支援プロジェクト訪問報告③（最終回）
社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合
田畑 美智子

インフォメーション

1. 国連障害者の権利条約（UNCPRD）締約国情報
2. 障害、CBR&インクルーシブ開発ジャーナル最新号のご案内
3. SDGsに関するアンケートのご紹介
4. 書籍『SDGs 危機の時代の羅針盤』のご案内

イベント情報

1. 『国際リハビリテーション研究会』主催【イベント情報】のご紹介

トピックス

～会員団体の活動紹介～

1. 日本発達障害連盟の開発途上国支援 ―技術供与から地域活動推進へ―

公益社団法人 日本発達障害連盟 理事
沼田 千好子

公益社団法人日本発達障害連盟（以下、連盟）は、国内および開発途上国の知的・発達障害児者の生活向上を目的に、1974年に設立されました。なお、設立のきっかけとなったのは、前年に開催されたアジア知的障害会議の参加諸国から「日本の技術と知識を移転してほしい」と要望されたことです。そのため、連盟の開発途上国支援事業は、技術・知識の移転で始まりました。具体的には、開発途上国の教師や療育者を日本に招聘して行う集団研修コースや、反対に日本の専門家を海外に派遣して行うセミナー、また、教育・療育方法をわかりやすく解説した書籍の作成などを行いました。

こうした事業は各国の専門家の技術向上に大きく寄与しました。しかし、残念ながら、受益者数を伸ばすことはできませんでした。何故なら、経済力の弱い国々では、給与支払いの発生する専門家数の増員が難しく、よって、多くの人々にサービスを提供することができなかったからです。

そこで、1990年代に、支援の軸足を技術移転から地域活動促進に移しました。事業例としては、2017年JANNET研究会で報告させていただいた「地域住民による知的・発達障害者支援活動（カンボジア）」等があります。また、同時期に、1980年から実施してきた集団研修事業（JICAより受託）のテーマを「技術移転」から「地域活動」に変え、ワークショップをはじめとする対話重視のプログラムを提供しました。その結果、様々な国々で、知的発達障害者をはじめとする弱者を支援する地域活動が始まりました。

なお、地域（共生）活動は、その昔、多くの国や地域で機能していたシステムです。よって、失った地域の関係性を取り戻す運動であると言えます。

新型コロナ後は、世界中の国々が厳しい財政運営を求められます。「地域活動」は、そうした状況下での弱者支援を可能にする方法でもあり、さらなる波及を期待します。



住民が運営する統合保育園の子供達とサッカーをする研修員（ウルグアイ）

2. 第21期ダスキン・アジア研修生 成果発表会・修了式 ～オンラインにて開催・アジア諸国にも配信！～

公益財団法人 ダスキン愛の輪基金 常務理事/事務局長
室山 都子

2020年7月30日(木)、「ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業 第21期生成果発表会・修了式」を開催いたしました。

通常は、参加者の皆様の前で成果発表をし、修了式をお祝いいただくのですが、今年はコロナの影響で、オンライン開催とし海外にもLIVE配信、600名を超える方々に視聴いただきました。

研修生の母国のご家族や友人、そしてこれまでのアジア研修生など、



来日翌日に行われた開講式 (2019年9月24日)



今までは参加することができなかった多くの方に、研修生の発表、修了式の晴れ姿を視聴いただき、一緒にお祝いいただきました。



研修生は、昨年9月に来日、約10ヶ月間、日本の福祉を学び、日本文化に触れてきました。



当日は、流暢な日本語(日本手話)で、研修内容、体験、帰国後の夢や目標を目を輝かせて語られました。



この4月からはコロナで予定通りの研修はできず、プログラムの変更やオンライン研修修等になり、不安で心細い毎日だったはずですが、前向きに取り組んでいただき、立派にこの日を迎えられました。

研修生から「ありがとうございます」という感謝の言葉をいただきましたが、反対に私達が研修生から勇気と元気と素敵な笑顔をたくさんいただいた一日となりました。研修生の皆さん、そしてご支援いただいています関係者の皆様、ありがとうございました。



左から（敬省略）

アンジュ・パラル（ネパール） / 脊髄損傷
ヒョウ・ティーン・ルー（ベトナム） / 脳性麻痺
アーロン・ムハンマド（モルディブ） / ろう
アリ・トミー・ヘゼルマン（サモア） / 全盲

※ダスキン愛の輪基金は、1981年に発足し、今年で40年目を迎えます。

現在は地域社会のリーダーとして貢献したいと願う障がいのある若者を海外に派遣する事業と、アジア・太平洋の障がいのある若者を日本へ招いて障がい福祉を学んでいただく2つの事業を行っております。詳しくはホームページをご覧ください。

<https://www.ainowa.jp/>

QRコード



3. ラオスでの障害者支援プロジェクト訪問報告③（最終回）

社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合
田畑 美智子

～2019年12月15日から21日まで、田畑美智子さんがAAR Japanの「障害者支援プロジェクト」の現地視察としてラオスに行かれました。その際のご様子を、連載でご報告いただきます。～

【ラオスでの障害者支援プロジェクト訪問その5：当事者団体訪問】

ラオス滞在の最終日。
ビエンチャンで障害当事者
団体を訪問して回りました。

まずは AAR のパートナー、
LDPA。

肢体障害のある人たちを中心
に、あらゆる障害のある人の
社会参加を目指しています。

1 月より Director になる写
真のテさんは、元ダスキン研
修生。

これから国際レベルのガバナ
ンス体制を確立し、国内で企
業などのパートナーを増やして
いきたい、と意欲的。



LDPA を訪問した時の様子。（2019 年）

私にとって一番よいニュースは、LDPA が中心となって、障害当事者団体のネットワークがようやく組成されそうということ。

日本障害フォーラム（JDF）のような組織ができれば、夫々の障害のある人が代表を送り、次回こそラオスの CSO がパラレルレポートを国連障害者権利委員会に送ることができるかも知れません。

監督官庁から障害のある人に関するデータが、LDPA に受け渡される可能性があるようです。



AFD 代表のタタさんと筆者。（2019 年）

民主的なプロセスで、他団体とスマートに連携し、1 人でも多くの障害のある人にサポートが届き、皆さんの意見がラオスの障害者施策に反映されていくことを願ってやみません。

次は、聴覚障害者の団体、
AFD。

代表は、やはり元ダスキン研
修生のタタさん。

来日時は 2 人だったラオス
国内の手話通訳、今は 4 名
に増えたそうです。

倍ですけど、4名ですからね…

ビエンチャン市内では、警察や病院などに聴覚障害について啓発を実施。
別途、ラオスの手話の本ができたのもすごいです。

そして、AARプロジェクトが進むサヤブリー県に近々、聴覚障害者のための支援センター設立の構想があるとか！

一行のテンションが上がりました。
サヤブリー県の受益者に聴覚障害者が結構いるからです。
これでお互いに有益な連携が一つ増えました！

その後は、盲人協会、LABへ。
会長のコンケオさん以外に、やはり元ダスキン研修生のチゴンさんも駆けつけてくれました。

ちなみに、チゴンさんのお迎えは、最近男の子を出産したチゴンさんのパートナー。

LABも上記のネットワークに参加予定なので一安心です。

お互いの活動を紹介しあい、農村地域での活動で遭遇した様々な障害のある人をサポートするための連携について話し合いました。



LABの皆さんと。右から2番目が元ダスキン研修生のチゴンさん。（2019年）

今年ようやく、視覚障害学生が一般大学を卒業しました。

3名のうち1名は公務員になったのですが、実際には仕事を未だもらっていません。

残りの2名も、Humanity and InclusionというNGOが支援してくれていますが、未だ正式な就職に至っていません。

ここからも色々大変ですが、だからと言って高等教育が無意味と考える人が出ないように祈るばかりです。

というのは、そういう意見は他の国の当事者からも時々聞こえてくるから。

扉は叩かないと開かない！！

空港に向かう前に、LAB定番のマッサージで癒された面々でした。

【ラオス障害者作業所ソンプオ】

ラオスを離れる直前、かねてから訪問したかったソンプオ作業所にお邪魔することができました。
Support for Women's Happiness という NPO が支援している団体です。



ソンプオ作業所にて（2019年）

道路のわきの壁の向こうは、
何と滑走路！

そう、ビエンチャンの空港のすぐ隣の路地にあるのです。

女性を中心に障害のある人が25名、子どもを入れると29名が共同生活しています。

工房では、ミシンやアイロンを使って色々な手工芸品を作っていました。

読み終わった新聞をフェルトのように固めて、12月の後半だったのでクリスマスのオーナメ

ントを色々。

職場の同僚にお土産に買って行ったら大変に好評でした。

プラスチック削減ブームを反映し、竹で作ったストローを地元のデザインの布袋に。
布製品は、名刺入れとか、ランチョンマットとか、てまりとか。

フィルタコーヒーもあり欲しかったのですが、現地通貨キップが足りず断念。

様々なイベントに出展する他、市内の有名なカフェに製品を展示し販売もしているそうです。

それでも、市場開拓は容易ではなく英語で説明してくれた肢体障害の女性も、もっと販路を開拓しなければ、と、気持ちを引き締めていました。

かわいいグッズが色々あります。

空港からも近いので、ビエンチャンにお越しの際には、是非お立ち寄りください。

インフォメーション

1. 国連障害者の権利条約（UNCRPD）締約国情報

(関連サイト：<http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/rights/right.html>)

署名国・地域数 **163**/ 締約国・地域数 **182** (2020年8月末現在)

https://treaties.un.org/Pages/ViewDetails.aspx?src=IND&mtdsg_no=IV-15&chapter=4&lang=en

2. 障害、CBR&インクルーシブ開発ジャーナル最新号のご案内

障害、CBR&インクルーシブ開発ジャーナルの最新号が発刊されました。

ホームページより、目次をご確認いただけます。ご興味のある記事や項目をご覧ください。

以下がホームページの URL です。

URL：<http://dcidj.org/>

3. SDGs に関するアンケートのご紹介

国連が「SDGs の達成年およびその後の世界はどのように思うか」に関するアンケートを行っています。あなたの貴重な意見を募集中です。

- ① SDGs の最終年である 2030 年を自分事にとらえて考えさせてくれるアンケート

「2030 の私の世界」

<https://myworld2030.org/?lang=ja>

- ② 2045 年に世界はどうか、に関するアンケート

「国連創設 75 周年 1 分間アンケート」

<https://www.unic.or.jp/>

世界の将来を考える機会になるでしょう。

両方とも、回答後すぐに統計に反映された数字が出てきます。

参加してみませんか。

4. 書籍『SDGs 危機の時代の羅針盤』のご案内

この11月20日に刊行される、岩波新書初のSDGsに関する書籍である『SDGs 危機の時代の羅針盤』の予約受付が始まりました。

共著者は、国連のSDGs策定プロセスにおいて日本政府の首席交渉官を務めた南博・元国連大使とSDGsジャパン政策顧問の稲場雅紀さんです。

SDGs採択前に開かれた外務省とNGO側の意見交換会は、国連で交渉にあたる南さんに、NGO側の意見を聞いてもらう場となり、NGO側のコーディネーターを稲場さんが担当しました。JANENTからも参加して障害の問題を知ってもらう機会となりました。

本の予約は以下のサイトからできます。

<https://www.iwanami.co.jp/book/b528717.html>

イベント情報

1. 『国際リハビリテーション研究会』主催【イベント情報】のご紹介

それぞれ概要は以下の通りです。

いずれも開催方法はZoomによるオンラインで、参加費は無料です。

- ・【第2弾】 国際リハカフェ tele.3 「COVID-19 と障害者と暮らし」

開催日時：9月13日（日）15:00～16:00

オーガナイザー：大室和也（難民を助ける会 [AAR Japan]）

内容：COVID-19が途上国の障害者の生活に与える影響について、難民を助ける会のいくつかのプロジェクト地の状況をご紹介いただき、今後の支援の方向性を検討します。

参加申し込み URL：<https://forms.gle/xTSGsXvm2qHCSrt97>

（申込締切：9月10日（木））

- ・【第3弾】 国際リハカフェ tele.4 「もう一つのソーシャルワーク実践

スリランカの「障害」と「仏教」を切り口に」

開催日時：9月19日（土）18:00～19:00

講師：東田全央（青森県立保健大学/アジア国際社会福祉研究所）

内容：スリランカを題材とした研究論文を数多く発表され、最近ではモンゴルの障害者支援プロジェクトに従事されていた東田さんを講師にお迎えします。9月に出版される著書「もう一つのソーシャルワーク実践—障害分野・災害支援・国際開発のフロンティアから」の内容を踏まえながら、スリランカでのご経験を元に語っていただきます。

参加申し込み URL：<https://forms.gle/T5wHewESUeJLNuXQ8>

（申込締切：9月17日（木））

編集後記

昨年9月から来日したダスキン21期生たちは、日本でコロナ禍と言う未曾有の中、見えない不安と戦う事になった研修生たちは不運だったと思うかも知れません。

その内の1人、モルディブから来日した、ろう者のアーワンさんは努力家であり、時間があれば常に学んでいました。

日本でコロナ禍の中、聴覚障害者の情報保障や要望、支援等の活動をしている様子を間近に見て学んだ事はモルディブでも大いに生かされると思います。

アジア各国に於ける聴覚障害者たちの情報保障やコミュニケーション、支援がどのようなになっているか気掛かりです。

研修生全員はコロナに感染する事無く、4人のうち2人は帰国予定日から大幅に延びましたが今月帰路につきました。残り2人はまだ日本に滞在中です。

この経験がとてつもないパワーになり、コロナ禍がおさまった後、各自国に於いて素晴らしい活動をしてくれると信じています。

(嶋本 恭規/JANNET 広報啓発委員)

JANNET 事務局では、会員の皆様よりメールマガジンに掲載する国際活動に関する情報を募集しております。団体会員様のイベント情報などありましたら事務局までご連絡ください。

JANNET 障害分野 NGO 連絡会

〒162-0052 東京都新宿区戸山 1-22-1 公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会内

【JANNET 事務局直通】 TEL : 03-5292-7628 FAX : 03-5292-7630

URL: <http://www.normanet.ne.jp/~jannet/>